令和７年度　基本評価調書			所管部局	環境生活部	所管課	文化振興課、道民生活課
施策名	独自の歴史・文化の発信・継承				施策コード	0310
政策の柱	歴史・文化・スポーツ				政策体系コード	3(6)A
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策					事務事業数 15
特定分野別計画	北海道文化振興指針、総合教育大綱					
SDGs					総合判定	やや遅れている
予算額（千円）	R5	535,851千円	R6	552,742千円	R7	608,103千円

施策目標	・ユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の適切な保存と活用を図るため、国内外に向けてその価値を広く発信するとともに、北の縄文官民連携プラットフォームの活用による官民一体となった取組を展開する。 ・北海道博物館を核として地域の博物館などとも連携し、本道ならではの歴史や文化を発信する取組を推進し、次代に継承する。 ・市町村や民間企業等の協力を得ながら、「北海道みんなの日」（愛称：道みんの日）の認知度を高めていく。
現状と課題	（縄文世界遺産の保全と活用） ・縄文遺跡群の有する価値や魅力を伝えるため、受入体制や国内外に向けたコンテンツの充実が必要である。 ・縄文遺跡群を適切に保存・管理し、次代に継承するため、情報発信を継続して行うほか、担い手育成が必要である。 （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・人びとの生活意識や価値観の多様化などにより、文化が果たす役割が大きくなる中、北海道独自の歴史や個性的な地域文化への理解を深め、次世代に確実に継承してくとともに、新たな地域文化を創造、発展させていく必要がある。 （道みんの日啓発） ・「北海道みんなの日条例」で定めた“道みんの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にあることから、道みんの日の認知度を高めるための取組を強化する必要がある。

<主な取組>

今年度の取組	（縄文世界遺産の保全と活用） ・〔縄文遺跡群世界遺産本部（４道県及び市町）〕国内フォーラム開催、魅力発見・発信事業 ・〔道〕縄文世界遺産の価値や魅力に関する普及啓発 （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・北海道の歴史・文化に関わる「資料の収集・保存」、「展示」、「調査研究および成果の発信」、「教育普及」、「情報発信」など ・北海道の中核的博物館の取組として、北海道博物館協会の事務局を担い、また、地区ブロック等とも連携して、同協会の大会を開催する （道みんの日啓発） ・道みんの日記念事業を実施するとともに、認知度を高めるための啓発、市町村・関係団体への協力要請を実施
実績と成果	（縄文世界遺産の保全と活用） ・イベント、セミナー及びパネル展を開催し、価値や魅力の発信を図った。 縄文世界遺産　登録３周年記念フェスタin豊平館（R6.11.4） 北の縄文リレー展2024in幕別（R6.8.31～R7.1.31） 縄文セミナーin幕別（R7.1.18） 縄文セミナーキッズin幕別（R7.1.19） 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録４周年イベント（R7.7.27予定） ・縄文世界遺産の価値や魅力を発信するためのコンテンツの充実化を図った。 映像制作（じょもるん、じょうもんへの絵本の映像化）（R7.2） 赤れんが庁舎へのデジタルサイネージの設置（R7.7予定） ・受入体制の充実化を図るためガイド向け研修会を開催（R6.12） （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・総合博物館として、収集保存機能・展示機能・調査研究機能等を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを行った。 ・北海道博物館協会との連携・協力により、道内の博物館職員の資質向上に向けた取組として、令和6年度から北海道博物館協会と北海道教育委員会の共同主催による博物館職員研修会（R7年7月5日）を実施する予定であり、参加人数予定は69名である。 （道みんの日啓発） ○記念事業 ・「北海道みんなの日 U-18メッセージコンクール」の実施（募集期間6/16～9/5） ・「道みんがっこう」の開催（6/24，7/17） ○市町村、民間団体・企業と連携した取組 ・市町村立施設の無料開放・割引（R5：39施設　R6：49施設　R7:48施設） ・ホテルレストランや北の愛食レストランと連携し、道産食材を使ったメニューを提供（R5:18店　R6:11店　R7:21店） ・民間企業の協力による記念キャンペーンの実施（R5：6社　R6：6社　R7:7社）

参考HP①	文化局文化振興縄文世界遺産推進室	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/index.html
参考HP②	北海道博物館	https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/
参考HP③	北海道みんなの日について	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dms/ss/717/event.html

令和７年度　基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

<指標分析> *成果指標の基準　要件(1)：アウトカム指標、要件(2)：「施策目標」や「現状と課題」に直結、要件(3)：総合計画等に掲げる指標*

成果指標①	増減方向	増加	単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
縄文世界遺産認知度			%	R4年度	R5年度	R6年度	R15年度	63.1%	D（80%未満）
			目標値	－	65	65	80		
			実績値	－	66	41			

設定理由 *要件(1)(2)*	北海道公式XなどSNSのアンケート機能を活用することにより、縄文世界遺産に対する一般道民の理解浸透度合いを測ることができ、道の情報発信等の取組の成果を推測することが可能。		
公表時期	毎年度10月集計	根拠計画等 *要件(3)*	北海道創生総合戦略

分析（主な取組と成果）

登録３周年記念フェスタの開催など、認知度の向上に向けた取組を実施してきたところであるが、R6年度縄文世界遺産認知度アンケートによる「世界遺産であることを知っている」割合は41%にとどまっている。同アンケートにおいて、縄文世界遺産のPRに不足していることとして、「一般の人が楽しめるイベント」、「SNS等での情報発信」との回答が多かったことから、SNS等で発信力のある者を起用したイベントを開催するなどの普及啓発を行っていくことで、認知度の向上に向けた取組を展開していくことが重要である。

成果指標②	増減方向	増加	単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
北海道博物館の利用者数			人	R4年度	R5年度	R6年度	R15年度	73.4%	D（80%未満）
			目標値	124,900	140,800	143,600	168,100		
			実績値	124,391	103,936	105,406			

設定理由 *要件(1)(2)*	北海道博物館を核とした本道固有の歴史・文化の発信に係る効果的な取組状況を測る指標であり、課題である本道ならではの歴史や文化を継承・発信する取組の推進の成果を測る指標として設定。		
公表時期	毎年度末集計、6月頃公表	根拠計画等 *要件(3)*	北海道総合計画（北海道博物館調査）

分析（主な取組と成果）

年４回の企画テーマ展や第１０回特別展「みんなの鉄道　―がんばれ！地域の公共交通―」（7/20～9/23）を開催し、様々な取組を行った。目標を超える利用者数には至らなかったが、多くの利用者を集客するため、多方面にイベントの情報発信・広報活動を展開した結果、R6年度はR5年度の実績値を超える集客に結びつき、今後も継続して情報発信・広報活動を展開していくことが重要である。

成果指標③	増減方向	増加	単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
道みんの日の認知度			%	R4	R5	R6	R15	54.5%	D（80%未満）
			目標値	62.7	62.7	62.7	62.7		
			実績値	46.5	37.2	34.2			

設定理由 *要件(1)(2)*	道みんの日を広く普及させるという北海道みんなの日条例の趣旨を踏まえ、直近で最も高い値（R3年度）を目標値として設定。		
公表時期	毎年不定期	根拠計画等 *要件(3)*	北海道環境生活部調べ

分析（主な取組と成果）

7月17日の「道みんの日」を中心に、ポスター・チラシの掲示・配架や公式インスタグラムなどのSNSによる発信、市町村等と連携した施設の無料開放や広報誌への掲載、民間企業等の協力を得て啓発品の配布や割引等のサービスの提供により各種取組を進めてきたところであるが、令和６年度アンケート調査による「道みんの日」の認知度は34.2%にとどまっている。同調査で、道みんの日を知ったきっかけを見ると「ポスター・チラシ」（33.8%）、「道・市町村の広報誌」（18.1%）、「道立・市町村立施設の無料開放」（16.3%）が上位３位であり、貢献度が低かったホームページやSNSの活用方法について検討が必要。

成果指標④	増減方向		単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
								－	－
			目標値						
			実績値						

設定理由 *要件(1)(2)*			
公表時期		根拠計画等 *要件(3)*	

分析（主な取組と成果）

成果指標⑤	増減方向		単位	過年度①	過年度②	最新年度	最終目標	達成率	判定
								－	－
			目標値						
			実績値						

設定理由 *要件(1)(2)*			
公表時期		根拠計画等 *要件(3)*	

分析（主な取組と成果）

令和７年度　基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

<取組分析（連携状況、緊急性・優先性）>

連携状況	（課題） （縄文世界遺産の保全と活用） ・縄文遺跡群の保全と活用に当たって、遺跡群が広域に分散していることから、道内関係市町のほか、北東北３県や関係民間団体と連携し、受入体制の充実化や情報発信等を進めていく必要がある。 （道みんの日啓発） ・「北海道みんなの日条例」で定めた「道みんの日」に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況があり、庁内はもとより市町村･企業・団体などと連携した取組をさらに進める必要がある。 （取組と成果） （縄文世界遺産の保全と活用） ・受入体制の充実化を図るため、道内外の縄文遺跡群のガイド団体を対象にした研修会を開催（R6.12） ・周年イベントの開催に当たっては、関係民間団体が出展するなど協働で開催するほか、北東北３県を含めた４道県で、イベント情報の発信を行うなど情報発信に力を入れた。 （道みんの日啓発） ・道みんの日について、市町村と連携し市町村立施設の無料開放・割引などの取組を実施するとともに、企業等と連携し、道みんの日に合わせた記念キャンペーンの実施や道産食材を使用したメニューの提供、啓発物品の配布などに取り組んでいる。

緊急性・優先性	（課題） ・「北海道みんなの日条例」で定めた「道みんの日」に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況もあり、庁内はもとより市町村･企業・団体などと連携した取組をさらに進める必要がある。 （取組と成果） ・道みんの日の周知と本道の価値と魅力への理解促進を図るため、市町村・企業・団体等と連携した取組を実施するとともに、道立施設の無料開放、道のホームページやインスタグラムによる情報発信や、道民参加型の取組である「道みんがっこう」の開催、若い世代を対象に、北海道の価値と魅力を発信するメッセージを募集することで、本道の歴史や文化、風土などについて理解と関心を深める「U-18メッセージコンクール」の実施など、各種取組を実施した。

<取組分析（その他統計数値等）>

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
	R4	R5	R6
開拓の村の利用者数	120,427人	130,905人	137,210人

（課題）

北海道独自の歴史や多彩な生活様式などに根ざした個性的な地域文化への理解を深めるとともに、次世代に確実に継承していくため、文化発信の拠点としての取組に関する周知が必要。

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定
インバウンド利用者の増加や道外企業、教育旅行の受け入れ件数の増加等により、前年度から約9%の増加となった。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度

（課題）

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

（課題）

（取組状況や実績、今後の見込みなど）	判定

令和７年度　基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

<一次政策評価（実施機関が行う政策評価）>　※「指標判定」と「その他統計数値等」はそれぞれ指標等の平均を算出

指標判定	D※	連携状況	○	総合判定	やや遅れている
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

■判定が「D」の成果指標
（縄文世界遺産認知度,北海道博物館の利用者数,道みんの日の認知度）

	対応方針番号	内容
今後の対応方針	①	縄文世界遺産の認知度向上に向け、イベントなどで情報発信の取組を継続して実施するほか、道内関係市町、北東北３県や関係民間団体と連携し、受入体制の充実化を図る。
	②	北海道の中核的博物館としての機能や活動を担う博物館として、幅広い対象に向け展示や情報発信、教育普及等の事業展開を行い、多くの利用者を集客していく。
	③	令和６年度のアンケート調査によると、道みんの日を知ったきっかけとして「ポスター・チラシ」と回答する割合が高いことから、更なる認知度の向上に向けては、より効果的なポスター・チラシの掲示・配架場所の工夫を図る。 また、ポスター・チラシよりもホームページやSNSをきっかけと回答する割合が低かったことから、ホームページの閲覧を誘導する方法の工夫、SNSを使った情報発信の充実に努める。

<二次政策評価（知事が行う政策評価）>

二次政策評価意見	【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用のため、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値を国内外に広く発信することや、北海道の成り立ちからの歩みや明治以降の開拓、そして現代に至るまでの歴史や文化の継承・発信を推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

前年度の二次政策評価意見（区分）

<一次政策評価を踏まえた対応状況（３月末時点）>

	対応方針番号	内容
翌年度の対応状況	①	縄文世界遺産の認知度向上に向け、イベントなどで情報発信の取組を継続して実施するほか、北東北３県と連携しユネスコ世界遺産登録５周年の情報発信に努めていく。また、道内関係市町、北東北３県や関係民間団体と連携し、受入体制の充実化を図る。
	②	博物館法に基づく博物館登録を行い法的な位置づけを得て、道内の博物館等との連携を深め、興味・関心を喚起する企画展開催、魅力増進のための展示改修、利用者の利便性や安全性向上のための施設設備、誘客促進のための広報や情報発信等の強化を図る。
	③	市町村や民間企業等との連携を深め、より効果的なポスター・チラシの掲示や、ホームページ・SNSを使った情報発信の充実に努めるとともに、記念イベントの開催や各種イベントと連携した取組を実施することにより、認知度向上を図る。

<二次政策評価意見への対応状況（３月末時点）>

二次政策評価意見への対応状況	北海道ならではの自然、歴史、文化に関する遺産を継承・発信し、道民の教養の向上や文化の発展に寄与し、道内博物館の中核的役割を果たしていくため、博物館法や総合博物館条例に規定する資料の収集・保存、展示、調査研究などの基本的機能（事業）の水準の維持・向上に努めるとともに、利用者拡大のための魅力の増進や情報発信等の強化に努める。

令和７年度　事務事業評価調書	施策名	独自の歴史・文化の発信・継承	施策コード	0310

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	３月末時点における対応 二次評価意見への対応状況	３月末時点における対応 翌年度の方向性
0801		一般	文化発信拠点づくり推進事業	北海道歴史・文化ポータルサイト及び北海道デジタルミュージアムの運営等、北海道の歴史・文化に関する情報発信に係る業務	文化振興課	0	903	903	0.5	0.0	0.5	4,991					
0803		投資的経費Ⅱ（施設等建設工事費）	野幌森林公園施設整備費（施設建設事業費）	野幌森林公園の施設改修等に関する業務	文化振興課	0	9,000	9,000	0.0	0.2	0.2	10,635					
0804		維持費	野幌森林公園管理費	北海道博物館及び野幌森林公園の維持運営のための業務	文化振興課	0	3,414	3,414	0.0	0.7	0.7	9,137					
0805		事務（0予算）	野幌森林公園利用指導業務	野幌森林公園利用者の指導、苦情対応、普及啓発、広報、統計事務等	文化振興課	0	0	0	0.0	0.7	0.7	5,723					
0806		事務（0予算）	野幌森林公園許認可業務	道立自然公園である野幌森林公園内における各種行為の申請等に係る許認可等業務	文化振興課	0	0	0	0.0	0.3	0.3	2,453					
0807		一般	北海道博物館事業費（情報システム分除く）	北海道博物館の展示事業、教育普及事業等の実施	文化振興課	0	24,461	24,461	0.0	18.3	18.3	174,064					
0808		事務（0予算）	北海道博物館事業費(情報システム分)	収蔵資料データベースの管理、HP閲覧システムの運用経費	文化振興課	0	0	0	0.0	0.1	0.1	818					
0809		一般	北海道博物館試験研究費	北海道博物館の調査研究活動	文化振興課	0	10,359	10,359	0.0	9.9	9.9	91,292					
0810		一般	北海道博物館管理運営費	北海道博物館（本館）、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理運営（指定管理業務）	文化振興課	0	422,369	421,984	0.0	1.9	1.9	437,902					
0811		一般	開拓の村費	開拓の村の維持管理運営等に関する業務（委託料）	文化振興課	0	2,297	2,297	0.0	0.3	0.3	4,750					
0816		一般	樺太記憶継承事業	（一社）全国樺太連盟から委譲された資料の保管、調査研究を行うとともに、展示等に活用し、文化振興を図る。	文化振興課	0	6,721	0	0.0	0.2	0.2	8,356					
0834		一般	北海道博物館特別展	北海道博物館特別展の開催経費（新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬　―二人のサムライが歩んだ幕末・近代）	文化振興課	0	9,000	9,000	0.0	1.1	1.1	17,993	②	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	※基本評価調書 <二次政策評価意見への対応状況>参照	改善
0835		一般	野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業（文化観光拠点施設機能強化等事業）	「北海道歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」に基づき展示改修等を行い、コロナ禍で減少したインバウンド需要の再取得を目指すための経費	文化振興課	0	62,900	20,967	3.0	1.8	4.8	102,140	②	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	※基本評価調書 <二次政策評価意見への対応状況>参照	改善
0836		一般	縄文世界遺産活用推進強化費	ユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の適正な保存と活用を図るとともに、国内外に向けて、その価値を広く発信する。	文化振興課	0	54,816	53,679	5.0	0.0	5.0	95,691	①	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	※基本評価調書 <二次政策評価意見への対応状況>参照	改善
0618		一般	「北海道みんなの日」活動事業費	旧整理番号：0818 「北海道みんなの日」（愛称：道みんの日）を広く道民や観光客に周知・定着させるため、各部局及び民間企業と連携した事業及びPR活動を実施	道民生活課	0	1,863	1,863	1.2	0.0	1.2	11,673	③	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況、事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	※基本評価調書 <二次政策評価意見への対応状況>参照	拡充
計						0	608,103	557,927	9.7	35.5	45.2						